



## 2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年11月13日

上場取引所 東

上場会社名 フリュー株式会社

コード番号 6238 URL <https://www.furyu.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三嶋 隆

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 財務経理部 部長 (氏名) 藤村 卓 TEL 03 (5728) 1761

四半期報告書提出予定日 2018年11月14日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第2四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	12,706	5.6	1,855	37.1	1,834	35.9	1,199	32.0
2018年3月期第2四半期	12,033	△0.0	1,353	△45.2	1,349	△45.3	909	△46.2

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 1,227百万円 (38.1%) 2018年3月期第2四半期 889百万円 (△45.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	42.40	ー
2018年3月期第2四半期	32.13	ー

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	23,804	17,358	72.5
2018年3月期	22,857	16,883	73.9

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 17,262百万円 2018年3月期 16,883百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	ー	0.00	ー	30.00	30.00
2019年3月期	ー	0.00	ー	ー	ー
2019年3月期（予想）	ー	ー	ー	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,000	△1.5	2,500	1.9	2,500	1.1	1,740	0.9	61.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社 （社名）株式会社コアエッジ  
（注）詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有  
（注）詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期2Q	28,296,000株	2018年3月期	28,296,000株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	195株	2018年3月期	192株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期2Q	28,295,808株	2018年3月期2Q	28,295,808株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(企業結合等関係)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2018年4月1日～2018年9月30日）におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景とした緩やかな回復傾向がみられるものの、米国政権の保護主義的な政策による貿易摩擦の懸念等により、先行き不透明な状況が続いております。

このような環境において当社グループは、企業理念「人々のこころを豊かで幸せにする良質なエンタテインメントを創出する！」のもと、プリントシール事業の拡大、若年女性層の顧客基盤を活用したマネタイズの多様化、IP（知的財産）を軸としたキャラクター価値の最大化に注力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高12,706百万円（前年同期比105.6%）、営業利益1,855百万円（前年同期比137.1%）、経常利益1,834百万円（前年同期比135.9%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,199百万円（前年同期比132.0%）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### (プリントシール事業)

プリントシール事業におきましては、2018年6月に新機種「PINKPINKMONSTER（ピンクピンクモンスター）」を発売いたしました。また、キャンペーン等の販促活動や、直営店「girls mignon（ガールズミニオン）」の新規出店等を積極的に行い、プリントシール機全体としてのプレイ回数は堅調に推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,420百万円（前年同期比105.9%）、営業利益は850百万円（前年同期比139.5%）となりました。

#### (コンテンツ・メディア事業)

コンテンツ・メディア事業におきましては、プリントシール画像取得・閲覧サービス「ピクトリンク」の入会促進施策と継続利用促進施策に取り組み、2018年9月末における有料会員数は162万人となりました。また、カラーコンタクトレンズの販売において、「LuMia（ルミア）」等のオリジナルブランド商品を中心に売上は堅調に推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,252百万円（前年同期比101.6%）、営業利益は2,080百万円（前年同期比98.7%）となりました。

#### (キャラクタ・マーチャンダイジング事業)

キャラクタ・マーチャンダイジング事業におきましては、アミューズメント施設向けのクレーンゲーム景品を中心に、多数の新規キャラクター著作権の獲得とその商品化を行いました。加えて、高価格帯を中心としたフィギュア等の商品を展開するホビーECサイト「F:NEX（フェネクス）」における販売が本格化し、売上に貢献いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,447百万円（前年同期比101.4%）、営業利益は130百万円（前年同期比120.2%）となりました。

#### (ゲーム事業)

ゲーム事業におきましては、PlayStation®4向けオリジナルタイトル「Caligula Overdose/カリギュラ オーバードーズ」の発売や、人気TVアニメ「ゆるキャン△」のBlu-ray・DVDの発売等により売上を伸ばしました。また、スマートフォン向けゲームを中心として、開発費や広告宣伝費等の費用の見直しを進めた結果、営業損失は前年同期に比べ縮小いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,414百万円（前年同期比138.4%）、営業損失は375百万円（前年同期 営業損失628百万円）となりました。

#### (その他)

その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、書籍の出版事業等を行っております。当第2四半期連結累計期間の売上高は171百万円（前年同期比72.5%）、営業利益は11百万円（前年同期比28.7%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産が23,804百万円、負債が6,445百万円、純資産は17,358百万円となりました。また、自己資本比率は72.5%となりました。

（資産）

資産につきましては、前連結会計年度末に比べ946百万円増加し、23,804百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加（前連結会計年度末比1,356百万円の増加）、たな卸資産の増加（前連結会計年度末比241百万円の増加）によるものであります。

上記の内、株式会社コアエッジを連結子会社化したことに伴い増加した主なものは、現金及び預金513百万円です。

（負債）

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ470百万円増加し、6,445百万円となりました。これは主に未払法人税等の増加（前連結会計年度末比320百万円の増加）、長期借入金の増加（前連結会計年度末比174百万円の増加）によるものであります。

上記の内、株式会社コアエッジを連結子会社化したことに伴い増加した主なものは、長期借入金174百万円です。

（純資産）

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ475百万円増加し、17,358百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加（前連結会計年度末比350百万円の増加）によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物は、営業活動による収入が投資活動及び財務活動による支出を上回ったため、前連結会計年度末に比べ1,351百万円増加し12,822百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動においては、税金等調整前四半期純利益を1,777百万円、減価償却費を892百万円計上しました。また、売上債権が851百万円減少し、法人税等の支払額が263百万円となりました。その結果、営業活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期連結累計期間（1,291百万円の収入）に比べ1,848百万円収入が増加し3,140百万円の収入となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動においては、有形固定資産の取得による支出が922百万円、無形固定資産の取得による支出が237百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入が208百万円となりました。その結果、投資活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期連結累計期間（812百万円の支出）に比べ124百万円支出が増加し936百万円の支出となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動においては、セール・アンド・リースバックによる収入が850百万円、リース債務の返済による支出が853百万円、配当金の支払額が848百万円となりました。その結果、財務活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期連結累計期間（851百万円の支出）に比べ1百万円支出が増加し852百万円の支出となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2018年5月14日に公表いたしました数値に変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結会計期間において、当社の持分法適用関連会社であった株式会社コアエッジの株式を追加取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。なお、みなし取得日を2018年9月30日としているため、当第2四半期連結累計期間においては、貸借対照表のみを連結しております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### (税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,470,684	12,827,074
受取手形及び売掛金	4,046,105	3,103,112
電子記録債権	765,860	923,788
たな卸資産	1,248,362	1,489,640
その他	1,043,708	949,874
貸倒引当金	△4,421	△3,236
流動資産合計	18,570,300	19,290,254
固定資産		
有形固定資産	2,470,775	2,596,808
無形固定資産	260,187	405,255
投資その他の資産		
その他	1,569,780	1,524,984
貸倒引当金	△13,233	△13,233
投資その他の資産合計	1,556,546	1,511,750
固定資産合計	4,287,509	4,513,815
資産合計	22,857,809	23,804,070

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	741,584	546,117
電子記録債務	1,523,031	1,650,630
未払法人税等	297,282	617,827
賞与引当金	5,667	5,027
返品調整引当金	130,325	116,201
その他	2,475,722	2,499,941
流動負債合計	5,173,613	5,435,745
固定負債		
退職給付に係る負債	790,283	824,305
長期借入金	-	174,513
その他	10,720	10,759
固定負債合計	801,004	1,009,578
負債合計	5,974,617	6,445,324
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,639,216	1,639,216
資本剰余金	1,639,216	1,639,216
利益剰余金	13,713,813	14,064,798
自己株式	△178	△181
株主資本合計	16,992,066	17,343,048
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	△19,028	6,107
退職給付に係る調整累計額	△89,846	△86,888
その他の包括利益累計額合計	△108,874	△80,780
非支配株主持分	-	96,478
純資産合計	16,883,191	17,358,745
負債純資産合計	22,857,809	23,804,070



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	12,033,470	12,706,012
売上原価	5,195,173	5,563,006
売上総利益	6,838,297	7,143,005
販売費及び一般管理費	5,484,667	5,287,624
営業利益	1,353,630	1,855,381
営業外収益		
投資事業組合運用益	7,334	—
償却債権取立益	7	—
受取和解金	—	9,259
その他	595	1,463
営業外収益合計	7,937	10,722
営業外費用		
支払利息	584	200
為替差損	7,828	14,929
投資事業組合運用損	—	5,188
持分法による投資損失	3,402	10,476
その他	1	511
営業外費用合計	11,817	31,306
経常利益	1,349,750	1,834,797
特別利益		
固定資産売却益	—	207
段階取得に係る差益	—	9,613
特別利益合計	—	9,820
特別損失		
固定資産除売却損	4,302	7,248
減損損失	—	60,078
特別損失合計	4,302	67,326
税金等調整前四半期純利益	1,345,448	1,777,291
法人税等	436,256	577,432
四半期純利益	909,192	1,199,859
親会社株主に帰属する四半期純利益	909,192	1,199,859

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	909,192	1,199,859
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△22,644	25,135
退職給付に係る調整額	2,456	2,957
その他の包括利益合計	△20,188	28,093
四半期包括利益	889,004	1,227,952
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	889,004	1,227,952
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,345,448	1,777,291
減価償却費	910,959	892,132
のれん償却額	—	40,385
減損損失	—	60,078
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△7,206	△1,912
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△13,881	△14,124
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	45,205	34,022
賞与引当金の増減額(△は減少)	△454	△640
持分法による投資損益(△は益)	3,402	10,476
支払利息	584	200
固定資産除売却損益(△は益)	4,302	7,040
売上債権の増減額(△は増加)	828,695	851,909
たな卸資産の増減額(△は増加)	△614,286	△241,277
仕入債務の増減額(△は減少)	114,097	△150,398
その他	△837,287	139,031
小計	1,779,578	3,404,216
利息及び配当金の受取額	40	10
利息の支払額	△584	△200
法人税等の支払額	△487,566	△263,762
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,291,468	3,140,263
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△644,509	△922,375
有形固定資産の売却による収入	—	1,140
無形固定資産の取得による支出	△136,288	△237,010
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	208,758
その他	△31,291	12,747
投資活動によるキャッシュ・フロー	△812,088	△936,739
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
セール・アンド・リースバックによる収入	792,887	850,149
リース債務の返済による支出	△795,034	△853,617
自己株式の取得による支出	—	△2
配当金の支払額	△848,874	△848,874
財務活動によるキャッシュ・フロー	△851,021	△852,344
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,619	410
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△374,261	1,351,590
現金及び現金同等物の期首残高	11,693,790	11,470,684
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,319,528	12,822,274

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	プリントシール 事業	コンテンツ・メ ディア事業	キャラクタ・マ ーチャンダイジ ング事業	ゲーム事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	4,174,996	4,186,450	2,414,105	1,022,039	11,797,591
セグメント間の内部売上高又 は振替高	-	-	-	-	-
計	4,174,996	4,186,450	2,414,105	1,022,039	11,797,591
セグメント利益又は損失(△)	609,724	2,108,268	108,564	△628,142	2,198,415

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	235,878	12,033,470	-	12,033,470
セグメント間の内部売上高又 は振替高	-	-	-	-
計	235,878	12,033,470	-	12,033,470
セグメント利益又は損失(△)	41,207	2,239,622	△885,992	1,353,630

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、書籍の出版事業等を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額△885,992千円には、全社費用△889,892千円、セグメント間取引3,900千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	プリントシール 事業	コンテンツ・メ ディア事業	キャラクタ・マ ーチャンダイジ ング事業	ゲーム事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	4,420,504	4,252,215	2,447,909	1,414,299	12,534,929
セグメント間の内部売上高又 は振替高	-	-	-	-	-
計	4,420,504	4,252,215	2,447,909	1,414,299	12,534,929
セグメント利益又は損失(△)	850,628	2,080,685	130,444	△375,105	2,686,652

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	171,083	12,706,012	-	12,706,012
セグメント間の内部売上高又 は振替高	-	-	-	-
計	171,083	12,706,012	-	12,706,012
セグメント利益又は損失(△)	11,817	2,698,469	△843,088	1,855,381

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、書籍の出版事業等を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額△843,088千円には、全社費用△846,988千円、セグメント間取引3,900千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ゲーム事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、60,078千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社コアエッジ  
事業の内容 オンラインゲーム事業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社が新規事業として展開している男性向けスマートフォンゲーム事業は、市場全体の成長は続いているものの、競争の激化、サービスの高度化・複雑化などにより、さらなる競争力の向上が必要な状況にあります。このような中において、当社はこれまで当社の持分法適用関連会社であり、オンラインゲーム事業を中心に事業展開している株式会社コアエッジから有益な助言・協力を得てまいりました。

今後は、専門的な知見を有する同社との連携強化を通じて、当社の男性向けスマートフォンゲーム事業の戦略・組織を再編し、さらなる競争力の向上を図ることが重要であると考え、当社が実施する第三者割当増資に応じ、子会社化することといたしました。

(3) 企業結合日

2018年9月28日

(4) 企業結合の法的形式

第三者割当増資の引受けによる株式取得

(5) 結合後企業の名称

名称の変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率	25.4%
企業結合日に追加取得した議決権比率	50.1%
取得後の議決権比率	75.5%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

みなし取得日を当第2四半期連結会計期間末としているため、被取得企業の業績は含まれておりません。

なお、被取得企業は持分法適用関連会社であったため、2018年4月1日から2018年9月30日までの業績は、持分法による投資損失として計上しております。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合直前に保有していた普通株式の企業結合日における時価	37,363千円
追加取得した普通株式の対価	現金 300,000千円
取得原価	337,363千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

財務及び法務調査に対する報酬等 2,750千円

5. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 9,613千円

6. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

40,385千円

(2) 発生原因

取得原価が取得した資産及び引き受けた負債に配分された純額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しております。

(3) 償却方法及び償却期間

重要性が乏しいため発生時に一括償却しております。